

エアロゾル製剤における適切な服薬指導の重要性

高橋 正幸¹⁾
たかはし まさゆき

平野 卓哉¹⁾
ひらの たくや

瀧本 瑞恵¹⁾
たきもと みずえ

加藤由紀子¹⁾
かとう ゆきこ

木幡 明子¹⁾
こはた あきこ

猪上 尚徳¹⁾
いのうえ なおのり

齋藤 善也¹⁾
さいとう よしなり

田澤 佑基^{1,2)}
たざわ ゆうき

熊井 恵美³⁾
くまい めぐみ

吉山 友二⁴⁾
よしやま ゆうじ

野田 敏宏^{1,2)}
のだ としひろ

個々の患者背景の違いを考慮した服薬指導の実践は薬剤師の重要な職責の一つであり、使用方法や注意事項を理解してもらうことが最大の治療効果を引き出す鍵を握っている。正確な操作が必要なエアロゾル製剤は、製薬企業から使用に関する注意事項が記載された指導箋が提供されているが、必ずしも患者背景に応じた説明や補足が行われていないことが問題視されている。我々は適切な使用方法を理解してもらうため、患者説明ツールと、薬剤師用の服薬指導支援ツールを作成し、これらの利用による適切な服薬指導について検証した。

患者説明ツール及び服薬指導支援ツールを用いることで、患者に適切な使用方法を理解してもらうことができた。この事は残薬の減少へとつながり、アドヒアランスの向上につながった。継続した使用が可能となることで、より早い症状の改善が期待できる。適切な服薬指導が患者の治療効果に重要な役割を果たしていることを強調したい。

キーワード：服薬指導、ベクロメタゾンプロピオン酸エステル、点鼻薬

I. はじめに

服薬指導とは、患者自身またはその保護者等に対して、治療を行う際に医薬品を適正に使用してもらうために行う指導やアドバイスであり、薬剤師法第25条の2において、薬剤師による情報の提供が義務づけられている。服薬指導を受ける患者は年齢や性別、知識等々、非常に多様である。そうした患者背景の違いを考慮し、かつ医師の処方意図を読み取った服薬指導の実践は薬剤師の重要な職責の一つである。とりわけ、初めて使用する薬が処方された患者においては、服用方法や使用方法、注意事項等を十分に説明し、理解してもらうことが最大の治療効

果を引き出す鍵を握っている。

医療の進歩とともに薬理的だけでなく製剤学的見地からも、数多くの有用な医薬品が発表されている。近年、医療分野では鼻や肺の粘膜を利用した種々のエアロゾル吸入療法が注目されており¹⁾、慢性閉塞性呼吸器疾患をはじめ、その治療薬として多くのエアロゾル製剤が用いられている²⁾。これらの適正使用においては、患者自身に正確な操作方法を十分理解してもらう必要がある。製薬企業からは使用に関する注意事項が記載された指導箋が提供されているが、必ずしも患者背景に応じた説明や補足が行われていないことが問題視されている。そのため、説明や補足において、薬剤師それぞれの知識や経験を活かした服薬指導が行われているが、経験の浅い薬剤師では、患者に合わせた服薬指導が十分行われているとは言えない。

そこで今回、適切な服薬指導を行うため、エアロゾル製剤の適正な使用方法を理解してもらうための

1) 有限会社十仁薬局

2) 北海道大学大学院生命科学院

3) 医療法人社団くまいクリニック

4) 北里大学薬学部臨床薬学研究・教育センター
保険薬局学



図1 リノコート® パウダー処方時に提供される噴霧説明書

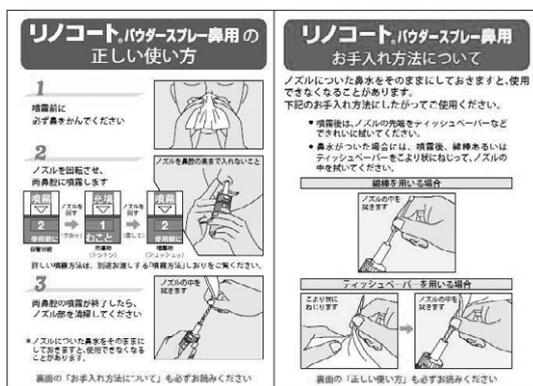


図2 企業から提供される噴霧説明書（簡略版）

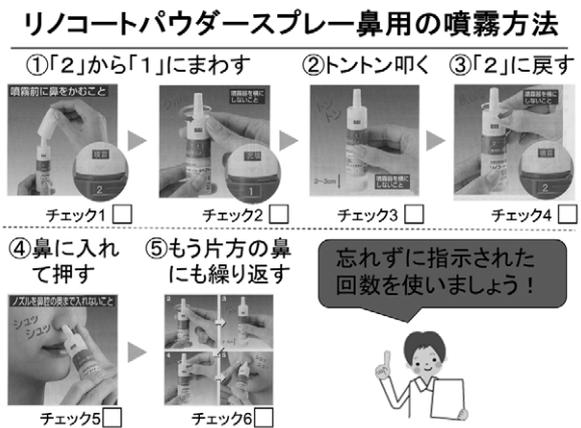


図3 指導箋の要点を強調した患者説明ツール

患者説明ツールと、服薬指導に用いる情報の要点を薬局内で統一し、表現方法を共有するための薬剤師用の服薬指導支援ツールを作成した。

Ⅱ. 方法

1. エアロゾル製剤の選択

エアロゾル製剤として、市販されている粘膜付着型鼻過敏症治療剤リノコート® パウダースプレー鼻用 25 μ g（以下、リノコート® パウダー）を対象とした。本薬剤は一体型噴霧器によるドライパウダー状の鼻用局所ベクロメタゾンプロピオン酸エステル製剤であり、アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎に適応がある。鼻噴霧用ステロイド薬は、鼻アレルギー診療ガイドラインにおいて、通年性アレルギー性鼻炎では中等症以上から、花粉症では軽症から用いられる基本的選択薬剤として位置付けられている³⁾ため、1年を通して処方機会が非常に高い薬剤である。

2. 患者説明ツール、服薬指導支援ツールの作成

製薬企業から提供されているリノコート® パウダーの使用法などに関する情報用紙を収集し（図1, 2）、記載の使用法および注意事項などの情報⁴⁾を整理した。患者説明ツールの作成に当たり、処方医に、本薬剤に対する一般的な処方意図や、薬剤師による服薬指導時に求める内容を確認した。さらに、投薬時に患者から受けた質問を集計することで、日頃患者が感じる疑問点を把握し、これに対する薬局内で統一した回答方法を検討した。

これらを基に添付の指導箋に工夫を加えた患者説明ツールを作成した（図3）。また、服薬指導の要点や患者の疑問に対する回答例を記載した服薬指導支援ツールを作成した（図4）。

3. 対象と方法

平成23年2月から平成23年8月までに、耳鼻咽喉科（くまいクリニック）にアレルギー性鼻炎（花粉症を含む）で通院し、リノコート® パウダーを処方

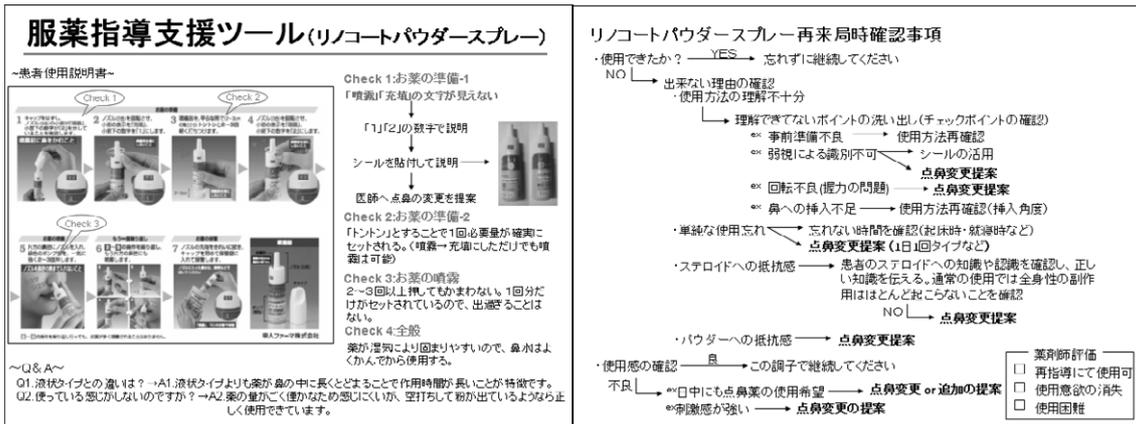


図4 薬剤師用服薬指導支援ツール

方された15歳から87歳までの患者37名(男性15名, 女性22名)を対象とした。服薬指導では製薬企業から通常提供される指導箋を用い, 薬剤師による判断のもと, 適宜作成した患者説明ツール及び服薬指導支援ツールを使用した。

Ⅲ. 結 果

調査期間内に初めてリノコート® パウダーを処方された患者は15名であった。初回の服薬導時に使用方法に不安を感じた患者2名(65歳男性, 86歳女性)に対し, 初回より作成した患者説明ツール, 服薬指導支援ツールを用いて服薬指導を行った。

全患者のうち, 使用方法の理解はできているが, 継続使用していく中で, 1回に噴霧する薬の量が微量であるため, 使用感を得られないと訴える患者が2名いた。患者説明ツールを用いて使用方法の再確認を行い, 薬剤の噴霧状況を確認することで, 1名の患者は納得し, 処方継続となった。しかしながらも1名の患者は, 使用方法に問題は見当たらないものの, 処方変更希望の意思を示した。服薬指導支援ツールを基に処方医へ疑義照会を行い, 別の点鼻薬への変更を行った。

1. 患者説明ツールの有用性を示す事例

症 例：65歳, 男性

主 訴：鼻閉

患者は, これまで液剤型の点鼻薬の使用経験はあるものの, ドライパウダー型の点鼻薬の使用は初めてであり, その使用方法に関して不安を抱いていた。企業から提供される通常の指導箋を用いた服薬指導では, 詳細な使用方法の記載があることで, 逆に使用方法を十分に理解できないという状況になっ

た。そこで, 理解力不十分と判断し, 今回作成した患者説明ツールを用いた指導を行うことで, ノズルを回転させた後に再度回転させなくてはならない点と両鼻に行うために再度同じ操作が必要となる点が多分に理解されないことが明確となった。不明な点に対して詳しく説明を行うことで, 患者に使用方法を理解してもらうことができた。また, この患者説明ツールを提供することで, 自宅で使用方法を再度確認できるようになった。その結果, 2週間後の再来局時に使用方法を確認したところ, 使用方法は十分理解しており, 鼻閉症状の改善が確認できた。

2. 服薬指導支援ツールの有用性を示す事例

症 例：86歳, 女性

主 訴：鼻汁

患者は弱視であり, 初回指導時より前述の患者説明ツールを用いて説明を行ったが, 文字の認識, 並びに内容を理解することが困難であった。そこで, 服薬指導支援ツールに記載してある「目の不自由な方に対する指導方法」をもとに, 文字ではなく色で認識してもらうため, 噴霧器に色別のシールを貼って使用法の説明を行った。その結果, 患者は操作方法に理解を示し, 短時間で適正な操作を行うことが可能となった。2週間後の再来局時に使用方法を再確認したが正しい操作方法で噴霧することができ, 主訴である鼻汁の改善も認められた。

Ⅳ. 考 察

要点をおさえた説明ツールを使用することで, 患者に初回から適切な使用方法を理解してもらうことができ, 早期に薬の効果が期待でき, 症状の改善へとつなげることが可能になると考える。また, どの

薬剤師でも服薬指導支援ツールを用いることで過去の経験を踏まえた指導ができ、患者背景に合わせた適切な対応を取ることが可能であることが示唆された。

服薬指導の実践においては、患者個々の性別や年齢、生活環境などの患者背景を的確に把握した上で、表現方法を工夫することが必要である。企業から提供される指導箋を用いた場合でも、多くの患者は使用方法に理解を示す一方で、理解困難な患者も少なからず存在する。今回の試みにより、患者にリノコート® パウダーの使用法に対する要点の明確化と正確な使用方法を提供し、また、薬剤師間での幅広い説明方法の共有化を行うことが可能となった。単に用法の指導を行うだけでなく、用法の理由を添えた説明を検討することは、患者とのコミュニケーションやアドヒアランスを向上することに役立つと考えられる。また、新人薬剤師や6年制実務実習での服薬指導マニュアル作成への可能性が併せて示唆された。総じて、より良い服薬指導の展開は薬剤師業務水準の全体的な向上につながり、患者の治療効果の向上に寄与し得ることを強調したい。他の薬剤にも的確な情報提供ができるように検討することが今後の課題であると考えられる。

V. まとめ

使用方法に特徴のある外用薬においては服薬指導の表現方法の工夫に加え、薬剤師間での指導内容の統一や情報共有が重要であると考えられる。作成したツールを活用することにより、薬局薬剤師の知識や経験の差によらず、均質な薬学的管理指導が可能となり、患者のリスク低減につながる可能性が示唆された。

参考文献

- 1) 綿野 哲：医療分野におけるエアロゾルの応用—吸入製剤の最新動向—。エアロゾル研究 21:4, 2006.
- 2) 宮本昭正監修：喘息のくすり一覧。ライフサイエンス出版, 東京, 2010.
- 3) 鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会：鼻アレルギー診療ガイドライン。ライフ・サイエンス, 東京, 2009, 34-62.
- 4) リノコート® パウダースプレー鼻用 25 μ g インタビューフォーム, 帝人ファーマ株式会社 (2010

年3月改訂, 第4版)。

Summary

THE IMPORTANCE OF APPROPRIATE DRUG ADMINISTRATION : GUIDANCE FOR AEROSOL DRUGS

Masayuki Takahashi, PhD¹⁾

Takuya Hirano, BS¹⁾

Mizue Takimoto, BS¹⁾

Yukiko Kato, BS¹⁾

Akiko Kohata, BS¹⁾

Naonori Inoue, PhD¹⁾

Yoshinari Saito, PhD¹⁾

Yuki Tazawa, MS^{1,2)}

Megumi Kumai, MD, PhD³⁾

Yuji Yoshiyama, PhD⁴⁾

Toshihiro Noda, MS^{1,2)}

1) Jyujin Pharmacy

2) Hokkaido University, Graduate School of Life Science

3) Kumai Clinic

4) Division of Community Pharmacy,
Center for Clinical Pharmacy and Clinical Sciences,
Kitasato University School of Pharmacy

To provide patients with appropriate drug administration guidance depending on their different backgrounds is one of the most important responsibilities of a pharmacist. The guidance ensures patients' understanding of the correct usage and precautions for each particular drug, which is the key in obtaining the maximal medicinal effect. For the use of aerosol drugs that require accurate operation, an instruction sheet with a list of precautions is provided from the pharmaceutical companies, however, there remains a problem that supplementary explanations are not adequately performed by a pharmacist to suit the background of each particular patient. To overcome this problem, we developed an explanatory tool and a drug administration guidance support tool for pharmacists to explain the appropriate usage to patients. We also examined the appropriateness of the drug administration guidance when these tools were used.

The use of both the patient explanation tool and drug administration guidance support tool resulted in an increased number of patients understanding the appropriate usage method. This led to a decrease in left-over drugs and improved compliance. Furthermore, patients were able to continue use of the drugs, therefore it can be expected that patient symptoms improve over a shorter time span. In conclusion, this study strongly in-

dicated that appropriate drug administration guidance plays an important role in improving the medicinal effects of drugs for patients.

Key words : drug administration guidance, beclomethasone dipropionate, nasal spray

別刷請求先 : 高橋正幸

〒070-0031 北海道旭川市 1 条通 8 丁目 504 西
武パーキングビル 2 階

有限会社十仁薬局

TEL 0166-23-6611 FAX 0166-24-1661

e-mail address : jyujin@potato2.hokkai.net
